競 技 上 の 確 認 事 項

競技委員長　　大 城　 正

1、大会当日

① 試合開始時刻は、初日は9時50分、2日目は9時30分とする。
② 初日は試合は追い込み方式、2日目は変則時間設定で行う。
③ ユニフォームは各所属のものも認める。また番号は1～18までとする。
④ 予選は21点制の3セットマッチとし、ファイナルセットは15点制とする。
決勝トーナメントは25点制の3セットマッチとし、ファイナルセットは15点制とする。
⑤ 連続試合は20分間の休憩を設定する。(10分間はコートに入れない。10分間は合同練習とする。)
⑥ 前の試合が早めに終了したときは、次のチームが練習してもよい。
⑦ 予選に関して、チームが最初の試合にあたる場合プロトコールを採用する。そうでない場合、前の試合終了後10分間の合同練習の後に試合を開始する。※練習は隣のコートに迷惑のかからない練習を行うこと。
2日目に関しては、第1試合終了後10分間の合同練習を行い、その後、プロトコールを行う。また、両コートの第3試合終了後、40分間の昼食時間を取り、昼食時間終了後、10分間の合同練習を行い、プロトコールを行う。
⑧ 生徒役員については、初日、決められたチームが行う。2日目の第1試合は第2試合のチームから4名ずつ出す。2試合目以降については、敗者チームから7～9名出す。第4試合の役員は第1試合の敗者チームから出す。※2日目の役員は登録メンバーでなくても可とする。
⑨ コートワイピングについては、コート内の選手が時間をかけずに行う。
主審の判断によりモップを使用させる(ベンチにモップを置く)。
⑩ エントリー以外はフロアーに入れない(練習時も同じ)。

2. その他

① 9時00分までにエントリー用紙を提出すること。
② ラインナップシート用紙は、毎試合、各セットごとに提出すること。
③ 監督、コーチ、マネージャーのワッペンは確実に左胸につけてベンチ入すること。また、部長は準備されたIDカードをかけてベンチ入りすること
④ 小学生を常時、1名以上コート内でプレーさせること。中学生と区別するために小学生はハチマキを着用する。
※審判、競技委員を監督に依頼することもありますので、ご協力下さい。

3. 競技日程

― 予選リーグ ―	― 決勝トーナメント ―
初日:11月10日(土)	2日目:11月11日(日)
緑風久志・西原東会場	与那原中会場
8:30　開館・第2試合以降のチーム練習	8:30　開館・第2試合以降のチーム練習
8:50　監督・役員打ち合わせ	8:50　監督・役員打ち合わせ
9:00　開会式(各会場)・第1試合のチーム練習	9:00　第1試合のチーム練習
9:35　コート点検	9:15　コート点検
9:39　第1試合プロトコール	9:19　第1試合プロトコール
9:50　第1試合ホイッスル	9:30　第1試合ホイッスル
※以下、追い込み日程	※以下、変則時間設定日程

審判上の確認事項

審判委員長　新 城　武

1, 本大会は、2018年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則及び監督会の申し合わせ事項を適応する。
2, 本大会は、ワンボールシステムでおこなう。
3, 試合前の公式練習は、3分間ずつとする。ただし、両チーム合意の場合は、6分間の合同練習を認める
4, 6人制3セットマッチのプロトコールにしたがって試合をおこない、握手に関しては試合開始前と試合終了後登録メンバー14名でおこなう。（監督会申し合わせ事項）
5, 試合前、監督はIF用紙にエントリー選手（最大14名）の番号とリベロ番号を記入しサインする。コイントス前にキャプテンはIF用紙にサインする。（副審は試合チームのエントリー用紙があるか確認する）また、キャプテンは試合終了後もIF記録用紙に確認のサインをおこなうこと。
6, アップを変更することは認められない。
　キャプテンは試合終了後も記録用紙にサインを行うこと。
7, 監督は、記録席に一番近い席に位置し、ラリー中はベンチに座ること。
8, 競技中に、タイムアウトの要求ができるのは、監督のみである。その際には、必ず公式のハンドシグナルを明確に行うこと。
9, 試合中の選手交代の要求はクイック・サブスティチューション・システムを適用する。2組以上の交代の場合は連続してサブスティチューション・ゾーンに向かうこと。
10, 部長、監督・コーチ・マネージャー・トレーナーは定められた服装を着用し、左胸にワッペンを着用すること。
11, 控え選手のアップは、アップゾーンで行い、ボールは使わない。ただし、セット間におけるコート外でのボールの使用は認める。（アップ以外の選手はベンチに座る）
12, コートのワイピングについて、コート内の選手で行う。（ハンドタオルなどを持参）タイムアウトやセット間は各チームでモップがけを行っても良い。但し、気温が上がりゲームに支障がある場合は、審判の指示でモップを入れることがある。
13, ベンチにキーパーや危険物の持ち込みは禁止する。（ビン入りの飲料水などは危険）
14, 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなければならない。疑問がある場合には、ゲームキャプテンを通じてのみ説明を求めることができる。
15, 遅延行為は、該当する試合が終了するまで加算され、チームに制裁が適用される。
16, 例外的な選手交代についての対応（正規な選手交代が不可能な場合の選手交代）は、交代された選手は、この試合は出場できない。但し正規のメンバーチェンジとは数えない。
17, サービスの試技は、許可の吹笛後8秒以内に行わなければならない。
18, サービスを試みてトスを上げ、ボールに触れないで床に落としても、サービスの失敗となる。
19, リベロについて
　① リベロは、1試合2人まで登録することができる。また、リベロは登録しなくてもよい。
　② リベロは、セット間で登録を変更することはできない。
　③ リベロは、試合ごとに変更できる。
　④ リベロは、セット開始前の行われる、ラインナップの選手確認が終了後、コートに入る。
　⑤ サービス許可の吹笛後に行われる交代は、サービスを打つ前では拒否されないが、そのラリー終了後口頭で注意される。同一試合中に繰り返した場合は、遅延に対する罰則の対象となる。
　（遅延警告　⇒　遅延反則）
　※サービスを打った後に交代が行われた場合はポジショナルフォルトの反則となる。
　⑥ リベロ選手は、他のチームメンバーのユニフォームと対照的な色のユニフォームを着用するか、ゼッケンをつける。
　⑦ リベロ選手を2人登録しゼッケンを使用する場合、お互いがはっきり違う色をつける。
　⑧ リベロ選手がフロントゾーン内で、指を用いたオーバーハンドパスを、競技者がネット上端より高い位置でのアタックヒットを完了した時は反則となる。
　⑨ リベロ選手は、ネット上端より完全に高いボールを、アタックヒットを完了した時反則となる。
20, ネットインのサーブは、認められる。
21, 競技者は、ケガの原因となるような物を身につけることは禁止される。また、装身具等がプレー中にはずれ、そのことでゲームの進行が遅れたときは遅延の警告・反則となる。
22, サービングチームの競技者が1人又は集団でスクリーンを形成し相手チームの競技者がサーバー又はサービス・ボールのコースを見ることを妨げてはならない。スクリーンの反則の成立はサーブがスクリーンの上を通過した時点で成立する。

23, **小学生は中学生と区別をはっきりするためにハチマキを着用する。**

※注意事項《日本中体連バレーボール競技部常任委員会確認事項》
足首のくるぶしが隠れないような「短いソックス」は全国中学大会では認めない。よってその予選である各ブロック大会から実施すること。